

平成 28 年度 生体機能診断ワークショップ実施報告

医学医療系 関本道治

筑波大学・茨城県立医療大学の学部交流プログラム「生体機能診断ワークショップ」を1月17日に筑波大学で、1月20日に茨城県立医療大学で実施しました。今回で3回目の実施となる生体機能診断ワークショップは、「将来医療チームの一員として、各々の専門職種としての役割を果たし患者さんの生体機能情報をいかに診断し治療・ケアに反映させるか」という課題について専門領域の異なるメンバー間での討論を行い、各専門職種の理解を深め、チームワークおよび当事者の力を引き出すエンパワメントの意義を理解し、ケアの方針をたてる過程を体験する」ことを目的としました。

今回は、筑波大学医療科学類3年37名、茨城県立医療大学放射線技術科学科3年37名、理学療法学科3年43名の3学科117名が参加しました。生体機能診断ワークショップのプログラムを表1に示します。今までのワークショップとは異なり、2日間ともに「生体機能情報をいかに診断し治療・ケアに反映させるか」を目的に症例を提示し、討論（コアタイム）を中心にを行い、3職種の理解を深めるようプログラムとしました。提示した症例を表2に示します。

表1 平成28年度生体機能診断ワークショッププログラム

1日目 筑波大学（1/17）

10:00 ～ 10:30	オリエンテーション
10:40 ～ 12:20	アイスブレイク、グループワーク
12:20 ～ 13:20	昼休み
13:20 ～ 13:50	コアタイム 全体説明
14:00 ～ 16:00	コアタイム
16:00 ～ 17:30	グループワーク
17:40 ～ 18:00	2日目の説明
18:00	解散

2日目 茨城県立医療大学（1/20）

9:30 ～ 11:30	コアタイムー2
11:30 ～ 12:30	昼休み
12:30 ～ 15:30	まとめのワーク
15:40 ～ 17:30	発表会（総括も含む）
17:30 ～ 17:50	アンケート
18:00	解散

表2 平成28年度生体機能診断ワークショップ 討論用症例

シナリオ1（Case 1）	前十字靭帯損傷に関する症例
シナリオ2（Case 2）	脳梗塞に関する症例
シナリオ3（Case 3）	脳梗塞に関する症例
シナリオ4（Case 4）	心臓リハビリテーションに関する症例



図1 生体機能診断ワークショップの様子。左写真はオリエンテーション、右写真はアイスブレイクの様子

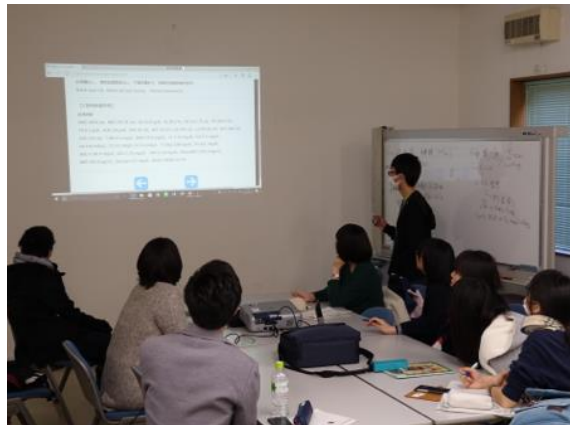


図2 コアタイムの様子。左写真は筑波大学、右写真は茨城県立医療大学でのコアタイム



図3 生体機能診断ワークショップ2日目の発表会

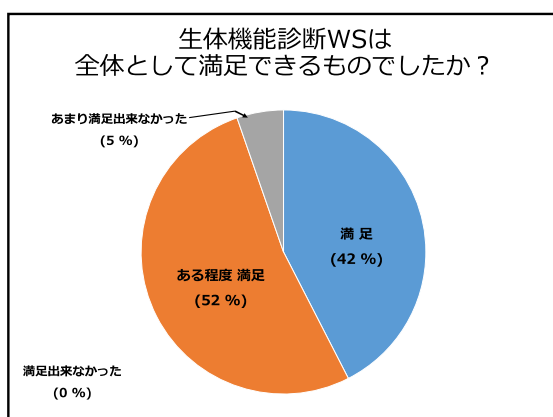
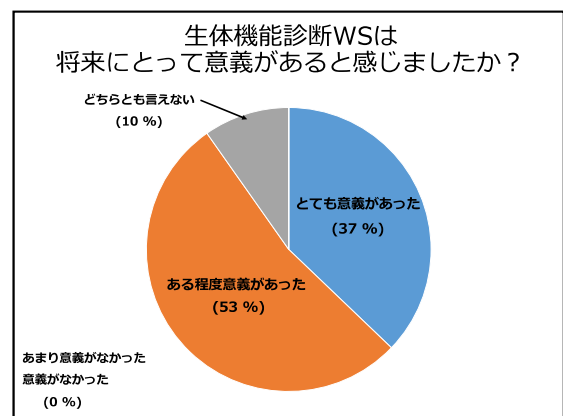
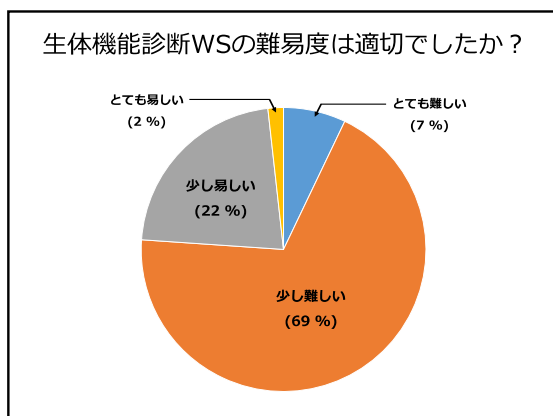
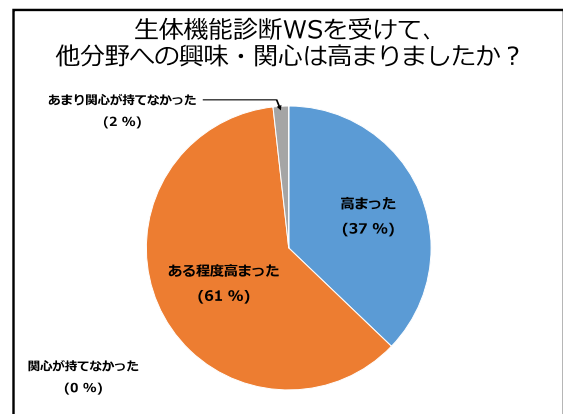
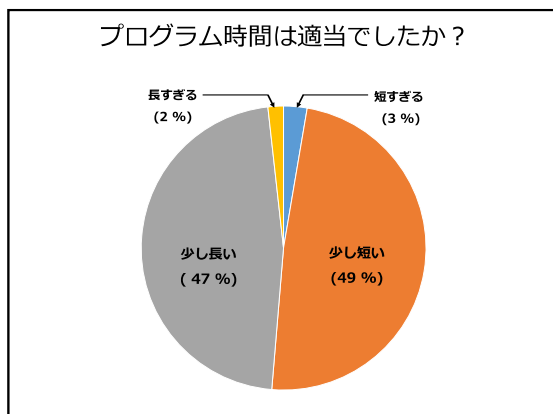


図 4 生体機能診断ワークショップ後に実施したアンケート結果

学生には、コアタイムの注意点として「専門外の学生へどのような検査なのか、どの様に結果を分析すれば良いか説明すること」を伝えました。また発表会時は、「専門外である分野について発表を担当する」ことを徹底させています。これにより学生からは、「お互いの専門分野に関して、説明をしたり受けたりすることで、知識が広がり良い刺激になった」と感想を多く頂きました。ただし、提示したシナリオの難易度でプログラム時間を「長い」「短い」と感じる結果となり、症例の難易度については今後のプログラムの課題と考えています。生体機能診断ワークショップは、学生同士で刺激しあう良いプログラムであることを改め感じました。今回初めての3学科で開催しましたが、全体を通じて満足度が高く、意義のある生体機能診断ワークショップだったと言えます。

筑波医療科学 第13巻 第1号	
編集	筑波医療科学 編集委員会 磯辺智範 二宮治彦
発行所	筑波大学 医学群 医療科学類 〒305-8575 茨城県つくば市天王台1-1-1
発行日	2017年4月24日